

# 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

## 【調査対象】

平成28年度 帯広市立南町中学校 第2学年

## 【実施日】

平成28年5月

## 【結果と考察】

### 1 実技集計より

男女ともほぼすべての種目において全国、北海道平均を上回っている。総合評価でA・B評価がついた生徒が男子で約4割、女子で5割を占めている。特に「20mシャトルラン（俊敏性）」の値が高い。体育をはじめ、部活動での取組も大きく影響していると考えられる。一方で、「上体起こし」、「長座体前屈」の数値が低いことから、身体の硬さが課題である。今後、柔軟性を高める取組を継続させることが必要である。

### 2 生徒質問紙集計より

- Q1「スポーツが好き」Q3「スポーツは大切」と考える生徒が、全国北海道平均に比べ圧倒的に多く、Q22「保健体育の授業で学んだことを授業以外でも行ってみる」Q23「保健体育で習ったことは将来に役立つ」と考える生徒は全国・北海道の平均より20%以上も多い結果となった。普段の保健体育の授業を通して健康や運動に関心・意欲を高め、取り組むことができる生徒が多いと考えられる。
- Q5「週の運動時間」において月曜日が低い値となっている。これは、部活動等の休養日であり、大会前以外の週に1日の休養日が適切に設定されていることが確認できる。
- Q6「朝食」をとる習慣は約9割の生徒が身につけている。Q13～15「運動、食事、睡眠」が大切と考える生徒は90%を超えておりよい傾向である。
- Q30～32「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」「失敗を恐れなくて挑戦する」生徒が全国・北海道より15～20%上回っている。保健体育だけではなく普段の学校生活や行事、部活動の成果であると考えられる。女子の「自分にはよいところがある」の値が低い。自己肯定感を高めることが今後の課題である。教科の枠を超え、全校で取り組むことが大切である。